



—東地中海地域、湾岸・アラビア半島地域ニュース—

シリア・イラク：イラク組閣に関するシリアでの報道 (20日付シリア国営通信社ほか)

19日、イラーキーヤのアッラーウィー代表はシリアを訪問し、シリアのバッシャール大統領、サドル潮流（サドル派）のサドル指導者、トルコのダーヴトオール外相とそれぞれ会談した。イラク組閣に関し、20日付シリア国営通信社ほか現地各地の報道の概要は以下の通り。

1. バッシャール大統領とアッラーウィー代表の会談

- (1) 両者は、組閣に向けてなされている努力に関する最新のイラク情勢について議論した。
バッシャール大統領は、イラクの統一・アラブ性・主権を基本とするイラク諸派間のいかなる合意に対しても、シリアは支持することを改めて述べた。
- (2) 会談では、両国関係および同胞関係にあるシリア・イラク両国民に資する全ての分野における関係強化の重要性についても話し合われた。
- (3) アッラーウィー代表は、シリアによるイラク難民受け入れに謝意を表し、イラク国民を支えるシリアの姿勢、およびイラク統一の保持と安全・安定の回復のためのシリアの努力を高く評価した。
- (4) アッラーウィー代表は、サドル指導者との会談後の記者会見において、バッシャール大統領との会談内容について以下のように述べた。
 - (イ) 会談は前向きかつ友好的に行われ、重要な議題を扱った。我々がイラーキーヤとして長年、バッシャール大統領やほかのシリア政権幹部と熱心に接触を保ち続けてきたのは、両国民の利益・安定・平和などを享有していることが、我々を結びつけているからである。
 - (ロ) バッシャール大統領の見解は前向きかつ詳細なものであり、地域的あるいは国際的ないかなる方面もイラクに介入せず、イラクが自らの決定を下すべきであることに加えて、イラクとその統一、活力の回復への熱意、全てのイラク諸派を代表する政府の早急な発足の必要性を示すものである。

2. アッラーウィー代表とサドル指導者の会談

- (1) 両者はダマスカスにおいて、両者にとって初となる会談を行い、イラク情勢、とりわけ、全てのイラク諸派を代表する挙国一致内閣の発足について議論した。
- (2) 会談後、両者はそれぞれ記者会見を行い、イラクの安全と安定というイラク国民の要望に応える組閣を可能な限り早急に行うことに対する希望を強調した。
- (3) アッラーウィー代表は、サドル指導者との会談が前向きな雰囲気の中で行われ、両者

が多くの点について合意したと述べた。

- (4) サドル指導者は、会談中にアッラーウィー代表が新内閣の組閣において、いくつかの妥協を行う柔軟性と用意があるという意思表示をしたと述べた。
- (5) サドル指導者は、組閣のために提示されるであろう人物らについては留保しないが、ほかの政治グループが提出した行動計画に留保することを示唆し、マーリキー首相率いる法治国家連合に対し、即時の組閣のために妥協することを求めた。サドル指導者は、将来のイラクのため、そして、即時の組閣のために、新たなスタートを切る準備があると述べた。また、イラクに展開する米軍の撤退が、組閣を容易にすることを指摘した。
- (6) サドル指導者は、イラク内政への不介入を条件とした、友好国や近隣国のイラク組閣のための努力への支持を表明し、先日のバッシュール大統領との会談が有意義だったと発言した。

3. ダーヴトオール外相とアッラーウィー代表、サドル指導者との会談

ダーヴトオール外相は、アッラーウィー代表、サドル指導者と個別に会談し、最新のイラク情勢とイラクの安全・安定・主権を保持するべく、イラク国民をまとめる内閣を組織する重要性について議論した。